

輸血・細胞治療センター

1. 概要

輸血・細胞治療センターは、年6回の輸血療法委員会の開催、年2回の輸血療法院内監査の実施を行い、院内の輸血療法が安全かつ適切に運用されるよう管理している。

2018年は、造血幹細胞および小児用の分割製剤について、日赤製剤や自己血と同様の管理・運用ができるようシステムの整備を行った。また2019年1月の新手術棟の完成にあわせて自己血採血室を新たに開設し、より快適な環境で自己血採取を行うことができるよう充実をはかった。

本年は、「輸血療法の実施に関する指針」に従い2点の運用の徹底を行う。一つは輸血・細胞治療センターから出庫するすべての血液製剤に対し、出庫時、製剤受け取り時、輸血開始時に製剤の外観チェックを行い、記録を残す。二つ目は、感染症に関する遡及調査等に対応できるように、実施済みの血液製剤バッグを全例回収し、一定期間保管する。以上の運用を実施することで、輸血が原因と思われる感染症の予防及び発症に対して的確な対応が可能となる。今後も安心・安全な輸血療法が実施できるよう管理する。

(センター長 杉浦 勇)

2.活動報告

(1) 定期委員会

輸血療法委員会開催 (2か月毎予定) *6回実施

(2) 輸血療法院内監査

輸血療法院内監査実施 *2回実施

(3) センター業務実績

①輸血関連検査件数

検査項目	総件数(件)
血液型	19,762
不規則抗体スクリーニング	14,539
交差適合試験	5,216

②血液製剤使用状況

製剤種	総単位数(単位)	前年比(%)
赤血球液(RBC)	10,410	0.93
新鮮凍結血漿(FFP)	4,038	1.16
濃厚血小板(PC)	17,080	0.82

③アルブミン（ALB）製剤使用状況

製剤種	総本数(本数)	前年比
ALB 25% 50mL	1,135	0.85
ALB 5% 250mL	765	0.99

* ALB使用単位数：7,917単位

* ALB/RBC=0.760 管理料 I 算定基準：2未満

④製剤廃棄率

製剤種	廃棄率(%)	前年比
赤血球液(RBC)	0.33	0.75
新鮮凍結血漿(FFP)	0.69	0.51
濃厚血小板(PC)	0.44	1.52

⑤副作用集計報告

製剤種	副作用報告件数(件)	実患者数(人)
赤血球(RBC)	77	52
新鮮凍結血漿(FFP)	42	15
濃厚血小板(PC)	104	47